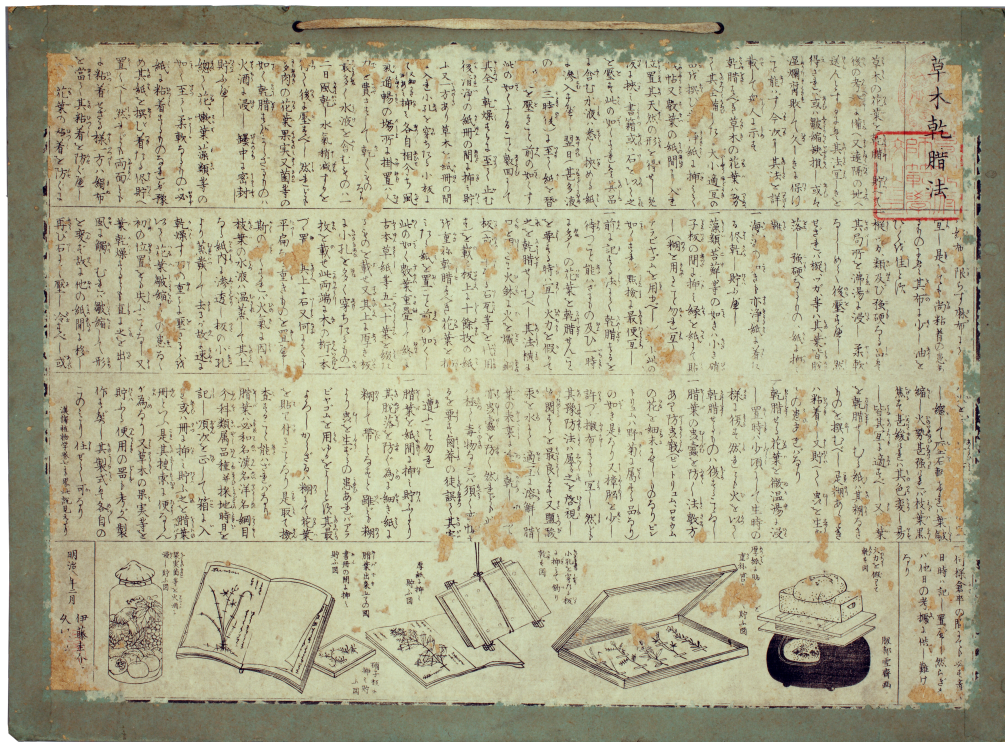


今月の逸品

NO.21 2016.12

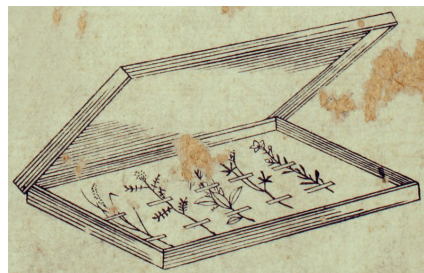


かんせき 草木乾腊法

1875 (明治8) 年

(外寸) 510 mm × 380 mm (本紙) 478 mm × 340 mm

草木の花葉について、標本の作成方法を記した印刷物。奥書によれば、後に日本初の理学博士号を取得することとなる伊藤圭介の文章を久保弘道が校正したもので、服部雪斎による挿図を付して博物局から出版された。漢文調の格調高い文章に、かなり細かくふりがなが施されており、初学者向けに作成されたことを推測させる。花葉を浄紙に挿み、板に挟んだ上で、書物または石を用いて圧して水分を抜くといった基本的な作成方法を記した上で、多肉の花葉のごとく乾燥しにくいもの、柔らかな花・若葉・藻類、硬い縦・ツガ類などに関して、それぞれの作成方法を提示している。また、火力を用いる時の注意点や保管方法を記すなど、内容は微に入り細を穿つものといえよう。本資料は、現在、掛図の形状に仕立てられているが、他機関の所蔵資料と照合すると、掛図へ改めるに際し、本来、存在していた 1.2 cm 程度の余白部分を切断したであろうことが判明する。



〈厚紙に貼したるを重ね管に納貯ふ図〉



〈腊葉出来上りの図〉